

上島町消防団幹部・新人合同研修会

令和6年5月12日（日）、せとうち交流館および消防庁舎において、消防団員の知識の向上と技術の習得を目的に消防団幹部・新人合同研修会を開催しました。研修会は、消防団幹部と入団3年以内の新人団員に分かれ研修を行った後、合



熱中症に気を付けましょう！

熱中症を引き起こす3つの要因

要因1 環境	● 気温が高い ● 日差しが強い ● 湿度が高い ● 風が弱い ● エアコンのない部屋
要因2 からだ	● 高齢者や乳幼児、肥満の方 ● 下痢やインフルエンザでの脱水状態 ● 糖尿病や精神疾患といった持病 ● 二日酔いや寝不足といった体調不良
要因3 行動	● 激しい筋肉運動や、慣れない運動 ● 長時間の屋外作業 ● 水分補給できない状況

環境からだ行動

これらの要因により

熱中症を引き起こす可能性がります！

熱中症を予防するために

エアコン、扇風機を
使おう

寝る前にも
水分補給を！

涼しくして寝よう

令和6年5月出動件数

地区	弓削	生名	岩城	魚島	その他	合計	R6累計
火災	0	1	0	0	0	1	3
救急	12	12	10	2	0	36	177

(令和6年5月31日現在)

【上島町消防署】 ☎ 77-4118
【上島町消防本部消防防災課】 ☎ 77-3166

新たな挑戦!! 消防団員 絶賛募集中

熱中症!?こんなときは医療機関に!!

熱中症を疑う症状があり、意識がない、または呼びかけに対する返事がおかしい場合は、すぐに救急車を呼びましょう。

意識があるときは、涼しい場所に移動し、衣服を脱がせて体内の熱を外に出したり、水分、塩分の補給したりするなどの応急処置を行いましょう。ただし、水分を自力で摂れない場合や、応急処置を行ったものの、症状が改善しない場合は、医療機関に行くようにしましょう。



1 果樹を加害する主要なカメムシ

カメムシは外敵から身を守るため触るなど刺激を受けると特有のニオイを発する虫として知られています。果樹類ではストロー状の口

昨秋から今春にかけて、柑橘生産者からカンキツの樹に緑色のカメムシがいると頻りに情報が寄せられました。上島町ではあまり発生例の少ないツヤアオカメムシであることがわかりました。今春は全国的にカメムシ類の発生が多いことがマスコミ報道されています。今回はツヤアオカメムシを中心に果樹のカメムシについて考察しました。

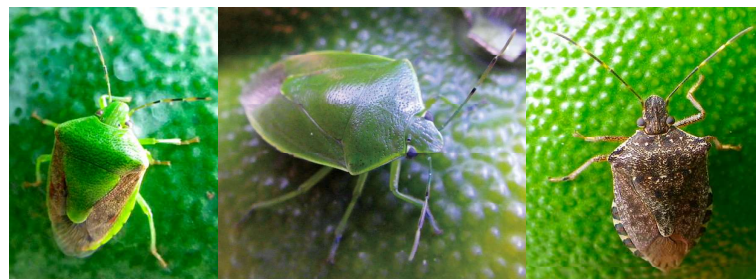


写真 左からチャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ

で幼果や成熟果の果汁を吸収することで奇形や早期落果の原因となります。果樹を加害するカメムシ類の主要種は「チャバネアオカメムシ」「ツヤアオカメムシ」「クサギカメムシ」の3種に限定されます（写真参照）。体長は10mm〜15mm内外で、気温が高い夜間に活発に飛び回り街灯などに集まる習性があります。

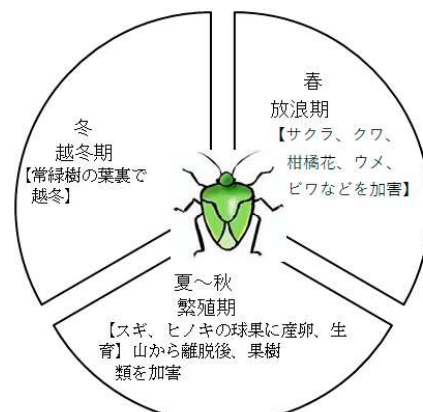


図1 ツヤアオカメムシの生活史

ヒノキやスギは夏季が高湿・少雨の翌年には開花量が多くなり実がたかくさんつくことがわかってきました。最近の夏は高温があたり前になり餌となる実はたくさんあり、昨年は梅雨明け以降12月ご

越冬した成虫は、気温が上昇する4月下旬ころから活動が活発となり春は、サクラ・カンキツ（花）・クワ・キリなどの実を餌として植物間を転々と移動します。夏になるとヒノキやスギの実に産卵して、成虫になるまでヒノキやスギの実を餌にとどまります。この時期に虫の世代が入れ代わります。

2 果樹カメムシの生活史

果樹を加害するカメムシ類は、①成虫の寿命が長い（約10ヶ月）。②産卵数が多く繁殖力が旺盛。③年間の発生回数（産卵回数）は1回〜2回する生物特性があります。

3 カメムシの多発生要因

秋になると成虫はヒノキやスギを離れカキやカンキツの果実、植物の実などを餌として移動を繰り返し、気温の下がる晩秋に越冬に入ります（図1参照）。

果樹カメムシ類の発生は、繁殖地で餌となるヒノキやスギの実に依存するため実の量が多ければ発生が増加します。全国的な人工林の増加は人の花粉症の増加ばかりでなく昆虫の発生にも影響し、果樹類では数年おきに大きな被害を受けてきました。では、人工林のほとんどない上島町でなぜ多くの成虫が見られたのでしょうか。

4 おわりに

今年のカメムシの異常発生は、推測ですが夏から秋の異常気象がもたらした現象と考えられます。今後、続けて起こる可能性は低いと思いますが、今後も気象の変動により今まであまり見られなかった生き物が異常発生する可能性があると思います。

ろまで記録的な少雨と冬の訪れが遅かったように気温も高かったことから、夏に生まれた新成虫がもう1回産卵した可能性が高く、成虫の発生量が例年よりも多かったのではないかと推測できます。それでは上島町で多く見られたカメムシはどこから来たのか、島で育った個体もいると思います。中国・四国の陸地部の人工林で繁殖した虫が餌を求めて大挙、遠方の瀬戸内海の島々に飛んできたのではないかと考えています。もともと果樹を加害するカメムシ種は大型で移動して暮らしていることから瀬戸内海を渡ることも十分考えられます。